

高齢化の実態

はじめに

御存じの通り、今日本はますますの高齢者社会になっています。

2020年（令和2年）の平均寿命は

女性	87.71歳
男性	81.56歳

今後ますます寿命が延びることが予想されています。

ちなみに“高齢者”と言われる65歳以上の人口における割合は、すでに**28.9%**です。

お金の不安

金融広報中央委員会『家計の金融行動に関する世論調査』（二人以上世帯）によると

令和3年で老後不安についてのアンケートでは**77%が「心配・多少心配である」**と回答。

さらに年齢別にみると20代から50代の現役世代は8割以上が『不安』と感じています。

参考：70代は70.1%、80代は62.4%と緩やかに減少傾向。

老後の要である年金の支給はどのようなになっているのか？

年金支給状況は次のグラフになります

金額別・男女別年金受給者数



年金の受給の現状を理解する

厚生労働省「令和2年度厚生年金保険・国民年金事業の概況」によると

全体の年金額の**平均は14万4366円**

(男性：16万4742円 女性：10万3808円)

そのなかで、月20万円以上受け取っている割合 ⇒ 男性23.6% 女性1.3%

逆に男性の76.4%、女性98.7%は月の年金は20万円未満の状態。

ちなみに、男性の約35%が月15万円未満。女性の半分は月10万円未満というデータは衝撃です。

参考：国民年金しか受け取れない個人事業主やフリーランス、専業主婦（夫）の場合

2022年度 満額支給 月額 6万4816円

基礎年金＋厚生年金で月20万円受給を目指した場合、現役時代にいくら年収があればもらえるのか？

〈表〉毎月20万円年金をもらうために必要な平均年収

世帯構成	必要な平均年収
1人世帯	約739万円
専業主婦（夫）世帯	約385万円
共働き世帯	約193万円

※厚生年金に40年間加入した場合

東京海上日動あんしん生命
「マネコミ！」より

とある夫婦の相談

「夫婦二人暮らしで在宅生活を出来るだけやっていきたいと何年も頑張ってきたが、そろそろ限界となり施設入所を考えるようになった」とのこと。

この夫婦が入所するとなった場合、どのような施設に入所し、施設ごとにいくら料金負担が必要となるか考えてみる

参 考

65歳以上の夫婦のみの無職世帯（夫婦高齢者世帯）及び65歳以上に単身無職世帯（高齢単身無職世帯）の家計収支 -2020年-

実収入	256,660円	（内 社会保障給付	219,976円	収入構成割合	85.7%）
消費支出	224,390円	（内 保険医療関係への支出割合	7.2%）		

家計調査（家計収支編） 調査結果 - 総務省統計局より

入所するには施設を知ることが必要 ～特徴・料金相場を知る～

月 額 利 用 料 の 相 場		
種 類	特 徴	相 場
介護付き有料老人ホーム	<ul style="list-style-type: none"> ・人員体制が充実している分費用は高めであるが手厚い介護が受けられる。 ・介護認定の有無は不問。 	15.7～28.6万円
サービス付き高齢者向け住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・入居後は必要に応じて訪問介護や通所介護などの介護サービスを利用可能。 ・ある程度、自分で身の回りのことができないとサービス回数がかさみ出費が生じる。 	11.8～19.5万円
グループホーム	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の診断を受けた方が対象 ・施設と同じ自治体に住民票がある方 ・入居者人数が少人数のためスタッフの目が届きやすい 	10～14.3万円
特別養護老人ホーム	<ul style="list-style-type: none"> ・長期に至って、安定した介護サービスを提供 ・入居条件：65歳以上の高齢者 ・要介護3～5認定 ・入居期間： 終身利用 看取り可能 	10～14.4万円
介護老人保健施設	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅に戻れるよう、リハビリサービスを提供 ・入居条件：65歳以上の高齢者 ・要介護1～5認定済 ・入居期間：3か月ごとに入居継続を判断 ・看取りは要相談 	8.8～15.1万円

※ 料金の開きは介護度＋収入＋個室／多床室で変わってきます

特養の部屋の違いを詳しく見てみる

料金は利用者負担分の介護サービス費 + 自費負担分の①食費②日常生活費③居住費の合算で構成されているが、一番差が出るのは居住費（通称：部屋代）になり、これが大きな差となる。

【部屋別】特別養護老人ホームの費用		
部屋のタイプ	特徴	イメージ
ユニット型個室	10名程度を「ユニット」とする少人数のグループに分けて介護サービスを提供。各ユニットには専任の介護スタッフが配置されている。設備的にも、共有のリビングスペースを取り囲む形で、個室の居室が配置されている	
従来型 個室	一般的であった通常の個室。現在主流の個室(ユニット型個室)と区別するため、『従来型』と呼ばれる。正面が廊下と壁であることや、別の方の居室となる作りになっており、一般的なホテルのような構造。プライベート空間は確保されているが、気軽に外で他利用者やスタッフと触れ合える環境ではない。身体的に動くことができる方であっても、自室でベッド上で過ごす時間が多くなってしまいう傾向も。	
多床室	1つの居室に、2~4台のベッドが置かれており、生活空間を共有。カーテンや家具で間切りはされているものの、完全なプライベート空間ではない。音や人の気配、臭いなどは完全に遮ることはできず、ストレスに感じることも。	

※上記額面は30日で算出した額面 ※利用者負担段階が第4段階（一般・市区町村民税課税世帯）の場合

考察

施設入所しか選択肢が無い際はやむを得ないが、金銭的なことを考えると自宅で健康を維持し過ごすことが理想といえるのではないのでしょうか。

これからも健康で過ごせますように…。